

- 桑田恭子 (ひろしま清風会 佐伯区)
  - ・広島市指定地域共同活動団体の指定等に関する条例素案
  - ・物価高騰と公共事業
  - ・女性活躍
  - ・保育園事業

- 森野貴雅 (新政クラブ 佐伯区)
  - ・平和記念公園とパールハーバー国立記念公園の姉妹公園協定
  - ・乗合バスの運賃
  - ・モビリーデイズの活用
  - ・宿泊税
  - ・投票率の向上

- 平岡優一 (自民党・市民クラブ 中区)
  - ・被爆80周年
  - ・街路樹の整備
  - ・毛利輝元没後400年記念事業
  - ・メタバースの活用

- 山本昌宏 (市民連合・市民の声 西区)
  - ・黒い雨
  - ・平和の推進
  - ・災害に強い街づくり
  - ・太田川放水路の堤防道路
  - ・市民の健康づくり
  - ・食品廃棄物のリサイクル

- 西田浩 (公明党 安佐北区)
  - ・安佐動物公園の活性化
  - ・広島市の公共施設のLED化
  - ・GIGAスクール端末の更新
  - ・安佐公民館の結露防止対策

- 清水貞子 (日本共産党 安佐北区)
  - ・雨水管建設工事による大規模道路陥没事故
  - ・JR西日本の無人駅の安全性と利便性
  - ・地域交通のバス便
  - ・ろう者に対する支援
  - ・放課後児童クラブの「専用室」

- 椋木太一 (自民党・市民クラブ 安佐南区)
  - ・「特別市」制度
  - ・カーシェアフリー
  - ・「勝手に踏切」
  - ・「ワンストップサービス」

※本文中の赤表記は4面で解説しています。



森野貴雅 新政クラブ

### 米国施設で原爆展を

問 平和記念公園とパールハーバー国立記念公園との姉妹公園協定を意義あるものにするために、米国政府の施設では初めてとなる「被爆の実相」の展示をパールハーバー国立記念公園で行うべきではないか。

答 被爆80周年の記念事業の一つとして、令和7年度、パールハーバーに係留されている戦艦ミズーリ記念館で、長崎市と共同で原爆・平和展を開催する計画であり、合わせて、同協定に基づいてパールハーバー国立記念公園においても展示等を行うよう打診し、調整を進めている。



平岡優一 自民党・市民クラブ

### 平和記念式典の招待国

問 本市として「迎える平和」を掲げている以上、平和記念式典には全ての国を招待するのが妥当だと考えるが、令和7年の招待国について、今一度見直すという考えはあるか。

答 平和記念式典は、原爆死没者の慰霊とともに、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向けた「ヒロシマの心」の発信を目的としている。令和6年の式典では、招待の有無によって本市の各国への評価が示されているとの誤った議論がなされたため、参列要請の方法については、この主旨を理解してもらえるものとなるよう、見直しを進めており、令和7年春に公表したいと考えている。



山本昌宏 市民連合・市民の声

### 被爆者の遺志をつなぐ

問 被爆者約8千人が次世代へのメッセージを記した色紙600枚が国立広島原爆死没者追悼平和祈念館に保管されている。日本被爆協のノベル平和賞受賞を記念するような展示を行い、被爆者の遺志をつなぐために、この色紙も展示してはどうか。

答 日本被爆協を始めとする被爆者の方々のこれまでの活動を紹介し、被爆者の平和への願いを多くの人に共有してもらうことは、核兵器廃絶に向けた市民社会の機運を高める上で意義深いことである。このため、これまでの被爆者の活動が分かる写真パネルや議員提案の色紙などを紹介する展示会を、令和6年12月25日から平和記念資料館において開催する予定である。



西田浩 公明党

### マルミジウの現況と今後

問 安佐動物公園で飼育されている絶滅危惧種のマルミジウが妊娠している。無事赤ちゃんが生まれれば、世界的ニュースである。現在の状況と、無事出産し子育てへとつなぐための対策はどのようなものか。

答 定期的に胎児の成長確認を行っており、順調にいけば、令和7年8月から12月頃に出産予定である。安全な出産に向け、これまでにエコー機器を導入したほか、体調管理や検査に必要な機材の購入も検討している。また、生まれてくる子ゾウが飼育場から転落するのを防ぐための柵等を設置するなど、安全・安心で快適な子育て環境を整えていく。



清水貞子 日本共産党

### 無人駅の安全性と利便性

問 障がい者や高齢者などが安心して駅を利用するためには駅員のサポートが基本である。JR西日本が進めている駅の無人化は、バリアフリー化に逆行していないか。また、芸備線の一部の駅にトイレがなく、整備が必要と考えるが、本市の認識は。

答 JR西日本は情報ディスプレイによる運行情報等の提供や、遠隔対応による介助手配など、駅利用者が困らないような環境づくりを推進しており、「駅の無人化に伴う安全・円滑な駅利用に関するガイドライン」に沿った取り組みを進めているものと認識している。トイレ整備については、まちづくり交通協議会における議論に合わせ検討していく。



椋木太一 自民党・市民クラブ

### 特別市制度の創設

問 指定都市市長会が提案する大都市制度「特別市」は、指定都市に権限と財源を一元化し、県に包含されない一層制の自治体で、「二重行政の解消や機動的な行政運営に有効と考える。制度創設に向け、本市はどのような取り組みをするのか。

答 特別市制度の実現に向けた提言等を行う指定都市市長会の「多様な大都市制度実現プロジェクト」に参加し、国等への提言文等による働き掛けや広報活動による機運醸成の取り組みを進めている。令和6年11月には、地域公共団体の関係者に特別市制度の必要性を理解してもらえよう、新たな提言の素案を策定し、今後、この素案を基に関係者と意見交換を行う予定である。

### 適正なバス運賃を

問 乗合バスの共同運営システムがスタートし、これまで以上に公的支援を行っていくことになると思われる。今後は、運賃改定案を議論する段階から本市が入り、運賃での収入と公的支援の適正な割合を探っていくべきかと思うがどうか。

答 運賃については、「バス協同・共創プラットフォームひろしま」において共同で取り組むべき主要なテーマとして、「ゾーン運賃などについて、市と事業者が一体となり議論を始めており、将来的にこうした制度の導入が可能となれば、その時点で運賃収入と公的支援の適正な割合についての議論が可能となると考えている。

### 厳粛な平和記念式典の実現

問 被爆80周年となる令和7年こそは、厳粛な式典を実現してもらいたい。中核派を主体とする団体による原爆ドーム前や式典会場付近での拡声機を使ったデモ集会、デモ行進について、本市としてどのように対応しようと考えているのか。

答 令和6年の式典において、デモ行進実施団体が本市の退去要請等に従わなかったことは公園条例に違反する行為であり、令和7年の式典に向け、県警と引き続き連携して対策を検討している。また、デモ行進中の拡声機からの音については、自主的な音量抑制の取り組みがなされるよう、同団体と粘り強く協議し、被爆80周年の式典を厳粛な環境下で挙行できるように尽力したい。

### 百歳体操の取り組みに表彰を

問 長年にわたり「いきいき百歳体操」の取り組みに携わった方々に感謝の意を伝え、今後もしっかりと地域の皆さんに続けていってもらうために、こうした方々を表彰する制度を設けてはどうか。

答 住民が主体となり介護予防活動を継続していくことは今後ますます重要になると認識しており、表彰については、長年にわたり地域介護予防拠点で主体的に取り組んできた活動団体に感謝の意を表し、活動を継続していく動機付けとなることを期待できることから、今後、その実施方法等について検討していきたい。

### 公共施設のLED化

問 「水銀に関する水俣条約」に基づき製造等を禁止する動きがある蛍光灯について、本市では地球温暖化対策実行計画において、令和12年度までに市有施設の全照明をLED化するとしているが、その数と予算はいくらか。また、取り外す蛍光灯はどのように処理するのか。

答 照明器具の設置状況調査が完了している主要な市有施設1122施設で言うと、令和6年4月現在の照明器具数は約25万台で、そのうち約4万5千台はLED照明を導入済みである。残りの概算事業費は100億円程度を見込んでおり、取り外した蛍光灯は、許可を受けた専門業者に委託し、法律で定められた基準に従って処理を行う。

### バスの増便で生活向上を

問 バスの減便で困っている市民の声を耳を傾け、スムーズな移動ができるようにすることが自治体の役割だと思いが、本市の認識は。また、バス会社に勝木線の虹山県営住宅経由の増便を申し入れることは考えているのか。

答 乗合バス事業において行政とバス事業者が一体となり、利便性と採算性を両立し、持続可能なものとする必要があると考えている。増便の申し入れについては、虹山県営住宅自治会長がバス事業者に既に提出されているご要望の中に含まれており、改めて本市から申し入れを行うことは考えていない。

### 「勝手に踏切」の安全策

問 線路内を横断中の死亡事故が後を絶たない。市民の生命・身体、輸送機関の公益性・信頼性をそれぞれ守るという観点から、「線路内歩行路(勝手に踏切)」の安全対策を効率的に行う方策を考える必要があるが、本市はどうか。

答 JR西日本の全面的な協力が前提となるが、まずは線路内歩行路の現状を確認し利用実態を把握した上で、例えば危険度が高い箇所を洗い出し重点的に対策を行うなど、区役所の意見も踏まえながら実行可能な対策を検討し、JR西日本とも連携してできることから順次取り組んでいく。

